

開講科目名	日本建築・都市史(07-08)		
担当教員	黒田 龍二	開講区分	単位数
		後期	2単位

### 授業のテーマと目標

日本の建築、都市、集落は長い歴史的時間の流れの中で独特の発展を遂げたきた。それらを学問的な認識の俎上に載せることは、これからの社会の形成にとって重要なことである。  
この講義では、地域の文化財の発見というテーマを設定し、地域の建築、都市、集落における文化財を学生それぞれが設定した問題意識のもとに、その意義を記述し、文化史的な評価を与える方法論を講義する。学生はそれに従い、あるいはまた独自の価値判断によって地域の文化財を発見する基礎的素養を身に付けることを目的とする。

### 授業の概要と計画

- 第1回 地域の文化財とはなにか。
- 第2回 地域の文化財を発見する論理
- 第3回 建築史的意義の具体例1（浄土寺浄土堂と太山寺本堂）
- 第4回 建築史的意義の具体例2（浄土寺の配置計画）
- 第5回 歴史的意義の具体例1（浄土真宗本堂の形成）
- 第6回 歴史的意義の具体例2（地域における浄土宗本堂の分類、類型の発見）
- 第7回 文化史的意義の具体例1（オコナイに使用される建築類型と分布）
- 第8回 文化史的意義の具体例2（オコナイに使用される建築類型の意義）
- 第9回 社会的意義の具体例1（神社史、神社建築史における神仏習合）
- 第10回 社会的意義の具体例2（国家史と神社理解の関係）
- 第11回 学生の事例研究とその評価1
- 第12回 学生の事例研究とその評価2
- 第13回 学生の事例研究とその評価3
- 第14回 全体的討議、質問

### 成績評価方法と基準

レポートによる評価  
C評価 基礎的事実が収集されている。  
B評価 基礎的事実に立脚して論理的、実証的に書かれている。  
A評価 基礎的事実に立脚して論理的、実証的に記述が行われ、妥当な意見、評価、方策などが提示されている。

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

学部講義の日本建築史、および日本歴史に関する基礎的知識をもっていることを前提とする。

### オフィスアワー・連絡先

講義日随時。研究室。

### 学生へのメッセージ

重要文化財建造物、重要伝統的建造物群保存地区をできるだけ多数見学してほしい。  
日本歴史、日本建築、および日本美術など我が国の文化に関する素養は、国際人としての基本的素養であるから、あらゆる機会に素養を深める努力をしてほしい。そのうえで、自分の生まれ育った地域、現に居住している地域の文化を見つめてほしい。

### テキスト

特に指定しない。

### 参考書・参考資料等

講義時に指示する。

開講科目名	西洋建築・都市史(07-08)		
担当教員	足立 裕司	開講区分	単位数
		後期	2単位

### 授業のテーマと目標

西洋建築史、近代建築史の中から適宜重要な事項を取り上げ、それぞれの様式や思潮の形成過程、歴史的な意義などについて講述する。多様な分野の関心を包摂しうるように、主として今日的な意義、関心の高い話題を取り上げる。その他、現代建築思潮や都市史などのテーマについても取り上げる。昨年度は下の項目のうち4,5を取り上げ講述した。

### 授業の概要と計画

1. ルネサンス～バロックの建築と都市
2. アーツ・アンド・クラフツ運動と世紀転換期の建築運動
3. 近代建築の形成期における日本と西洋との影響関係
4. モダニズムの形成とその再考察
5. ポストモダニズム以降の現代建築思潮

### 成績評価方法と基準

提示したテーマの中から1つを選び、各自が考察した内容についてプレゼンテーションする。

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

開講時に指示する。

### オフィスアワー・連絡先

開講時に指示する。

### 学生へのメッセージ

開講時に指示する。

### テキスト

参考文献は授業開始時に紹介する。

### 参考書・参考資料等

必要があれば、開講時に指示する。

開講科目名	建築環境安全論(07-08)		
担当教員	大西 一嘉	開講区分	単位数
		後期	2単位

### 授業のテーマと目標

現代の建築・都市が抱える安全安心テーマをとりあげ、社会的受容性あるいは防災的アジェンダ形成の観点から現実の行動や建築・都市活動との関係を論じる。各受講者は与えられたそれぞれのトピックについて積極的に事例を提出し、討議に加わることで、理解力、まとめる力、コメント力、プレゼンテーション力を評価される。

### 授業の概要と計画

1) 地域の風土、文化と災害、2) 市街地景観と木造密集地、3) 木造の経年劣化と居住性、4) 耐震性強化とリスク認識、5) 都市復興計画の支援システム、6) 自治体における災害対応、7) 市民防災教育、8) マンションの日常管理と緊急対応、9) 地震時の人的被害軽減戦略、10) 復興まちづくりと防災まちづくり、11) 防災体制の国際比較、12) 震災復興対策の海外事例

### 成績評価方法と基準

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

### オフィスアワー・連絡先

### 学生へのメッセージ

### テキスト

### 参考書・参考資料等

大西一嘉他，著「大都市の社会基盤整備」（東京大学出版会）

開講科目名	生活環境計画特論(07-08)		
担当教員	山崎 寿一	開講区分	単位数
		後期	2単位

### 授業のテーマと目標

生活および地域の視座から持続的発展のための環境計画の方法を獲得するために、話題論文の精読と環境共生的な建築や土地利用・地域空間の事例のワークショップ及びその解説を行う。

### 授業の概要と計画

- 1) 生活・地域に視座をおく環境計画理論の検証
  - ・古典・話題論文の視点・背景・課題設定、論証の方法、現代的価値・成果の有用性について理解する。
- 2) 持続的発展のための環境計画の方法の修得
  - ・フィールドワークや文献・図・写真を用いた建築・環境の文脈の読みとりや、そこに内在するサステイナブルな環境形成に必要な空間生成・環境管理の諸条件を理解する。

### 成績評価方法と基準

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

成績評価：受講生は、講義および討論に関するノートと課題レポートを編集してポートフォリオを作成し、最終成果物として提出することになる。成績評価は、最終提出物と講義の出席状況によって行う。

### オフィスアワー・連絡先

### 学生へのメッセージ

### テキスト

第1回目の講義で示す。

### 参考書・参考資料等

開講科目名	環境デザイン論(07-08)		
担当教員	重村 力	開講区分	単位数
		後期	2単位

### 授業のテーマと目標

環境デザインの分野で、現在関心が集中している新しい問題を捉え、これについて多面的に分析することにより、環境デザインへの理解を深める。

### 授業の概要と計画

講述及び討論の中から、課題を設定し、受講者の報告と講義及び批評・助言の双方式の科目運営を行い、環境デザインの諸問題について、内容を理解すると共に、歴史的、社会的、文化的分析の方法を学習する。

### 成績評価方法と基準

成績は、レポートおよび発表の内容で評価する。評価が60点以上となったものを合格とする。評価の目安は、講義の内容を十分に理解して基礎知識を取得し、意欲的に講義に参加したと判断できる場合を優、講義の内容はよく理解したが、積極性が十分でない判断できる場合を良、講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を可とする。

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

学部において、計画・デザインに関する講義・演習を修得していることが好ましい。

### オフィスアワー・連絡先

### 学生へのメッセージ

### テキスト

### 参考書・参考資料等

開講科目名	避難計画特論(07-08)		
担当教員	北後 明彦	開講区分	単位数
		後期	2単位

### 授業のテーマと目標

建物内での火災時から地域での災害に至るまで、避難行動は、非常時において人間の安全を確保するために欠かすことのできない緊急対応である。この講義においては、各種災害時の人間の避難行動の特性を踏まえた建築物及び地域における避難計画のあり方について講述するとともに、避難計画の立案に必要な避難計算や評価手法などについて取り上げる。

### 授業の概要と計画

建築物及び地域における避難に関して、性能設計法概念を示すとともに、性能設計の基礎となる避難安全性能の評価方法について、具体例を用いながら以下の項目について講述する。

1. 災害と人間行動
2. 火災時の避難行動特性
3. 建築物の避難計画のあり方
4. 地域災害時の避難行動特性
5. 地域における避難計画のあり方
6. 避難安全性能の評価方法

その上で、具体的な避難行動事例を適宜選択して地域等の状況と避難との関係についての考察を行うレポートAと、ある地域や街区、建築物等を取り上げて、その場所に相応しい避難計画を立案し、想定される災害に対して十分にその避難計画が機能するかを考察するレポートBを課す。

### 成績評価方法と基準

成績は、レポートA(40%)、レポートB(60%)の内容で評価する。評価が60点以上となったものを合格とする。評価の目安は、講義の内容を十分に理解して基礎知識を取得し、意欲的に講義に参加したと判断できる場合を優、講義の内容はよく理解したが、積極性が十分でない場合を良、講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を可とする。

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

### オフィスアワー・連絡先

### 学生へのメッセージ

### テキスト

参考書・参考資料等

--

開講科目名	鋼架構論(07-08)		
担当教員	長尾 直治	開講区分	単位数
		後期	2単位

### 授業のテーマと目標

鋼構造設計における部材および骨組の弾塑性挙動について論述する。特に、鋼構造設計の重要な要素である塑性解析および座屈を詳述する。  
また、上記の座屈現象と許容応力度設計法、塑性設計法での鋼構造部材の設計式との関連についても論述する。

### 授業の概要と計画

- (1) 架構の耐震設計法
- (2) 塑性解析と塑性設計
- (3) 座屈と座屈補剛
- (4) 骨組の弾塑性解析

### 成績評価方法と基準

成績はレポートの内容で評価し、評価が60点以上となったものを合格とする。  
評価の目安は、講義の内容を十分に理解して基礎知識を取得し、意欲的に講義に参加したと判断できる場合を優、講義の内容をよく理解したが、積極性が十分でないと判断できる場合を良、講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を可とする。

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

### オフィスアワー・連絡先

授業開始時に通知する。

### 学生へのメッセージ

### テキスト

井上一朗「建築鋼構造の理論と設計」

### 参考書・参考資料等

開講科目名	空間構成論(07-08)		
担当教員	田中 剛	開講区分	単位数
		後期	2単位

### 授業のテーマと目標

鋼を主体に用いて建築空間を構成する場合，構造上の重要なポイントとして接合部の設計があげられる．本講義では，接合部の力学性状について講述するとともに，設計上の問題点について解説する．

### 授業の概要と計画

1. 板の極限解析
2. 接合部の力学性状
3. 接合部設計の考え方
4. 接合部設計の問題点
5. 接合部施工の手順
6. 接合部の挙動と架構の挙動

### 成績評価方法と基準

成績は講義中に課すレポートにより評価する。高度な問題まで解決できるものはA，応用的な問題をある程度解決できるものはB，基礎的な問題を解決できるものはCとする。なお，出席回数が70%未満のものは不合格とする。

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

建築鋼構造の基本的な考え方については、理解できているという前提で講義を行う。

### オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーの日時は授業開始時に通知します。

### 学生へのメッセージ

建築鋼構造の接合部設計は、力学と施工の両方を理解して初めて行なうことができるようになります。講義で得た知識を本当の意味で自分に根付かせるためには、実際の接合部がどのように構成されているのかを観察し、力の流れと施工手順をあれこれ自分で考えることが大切です。是非、そのような習慣を身につけて下さい。

### テキスト

### 参考書・参考資料等

鋼構造接合部設計指針，日本建築学会

開講科目名	建築構造システム論(07-08)		
担当教員	谷 明勲	開講区分	単位数
		後期	2単位
<b>授業のテーマと目標</b>			
建築構造物を，入力・状態・出力をセットとする力学的システムとしてとらえ，ファジィ理論，ニューラルネットワーク，遺伝的アルゴリズム等の知的システムの手法を用いたモデル化，解析，同定，制御について講述する。適宜，資料を配付する。			
<b>授業の概要と計画</b>			
下記の内容の中から，いくつかのテーマを選定して講義を行う。 1. 知的システム 2. 構造同定：静的・動的モデル，損傷モデル 3. 構造制御：予測・適応・最適制御 4. 解析：離散的解析手法 5. 各種シミュレーションの実習			
<b>成績評価方法と基準</b>			
成績は，定期試験により，評価が60点以上となったものを合格とし，80～100点の場合を優，70～79点の場合を良，60～69点の場合を可と評価する。			
<b>履修上の注意(関連科目情報等を含む)</b>			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
オフィスアワーは講義開始時に通知する。			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>テキスト</b>			
適宜資料を配布する。			
<b>参考書・参考資料等</b>			
日本建築学会：やさしくわかる建築・都市・環境のためのソフトコンピューティング 加藤直樹，大崎純，谷明勲：建築システム論，共立出版			

開講科目名	防振耐震工学(07-08)		
担当教員	藤谷 秀雄、孫 玉平	開講区分	単位数
		後期	2単位

### 授業のテーマと目標

確率論・構造信頼性理論・限界状態設計法についての入門的解説を行った後、ランダム過程・ランダム振動論の基礎について解説する。応用として、線形振動系が定常・非定常ランダム過程を外乱として受けたときの応答や地震荷重効果としてのエネルギー入力 of 統計的性質について講述する。

### 授業の概要と計画

主な講義内容を以下に列記する。

- (1) 導入 - 構造物の強さと安全性
- (2) 確率論の基礎
- (3) 構造信頼性理論と限界状態設計法
- (4) ランダム過程・ランダム振動論
- (5) ランダム線形応答
- (6) ランダム地震荷重効果

(1) では、構造物の安全性の尺度として確率概念を用いることの必要性について、初心者向けの導入的解説を行う。(2) では、確率密度関数、確率分布関数、期待値演算、共分散と相関係数など、確率論の基礎についての復習を行う。(3) では、R B L S D (信頼性理論に基づく限界状態設計) の枠組、近似

### 成績評価方法と基準

成績は、レポートあるいは講義中の発表の内容で評価する。評価が60点以上となったものを合格とする。評価の目安は、講義の内容を十分に理解して基礎知識を取得し、意欲的に講義に参加したと判断できる場合を優、講義の内容はよく理解したが、積極性が十分でない場合を良、講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を可とする。

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

### オフィスアワー・連絡先

### 学生へのメッセージ

### テキスト

参考書・参考資料等

--

開講科目名	都市環境システム(07-08)		
担当教員	森山 正和	開講区分	単位数
		後期	2単位

### 授業のテーマと目標

地球環境の保全を考慮した都市のあり方が問われている。本講義はそのような視点から、都市環境クリマアトラス（都市環境気候図）の作成方法とその計画への利用方法について講述する。なお、本講義に関連したテーマを課題として提示し、レポートの作成と口頭発表を課す。

### 授業の概要と計画

1. 都市の熱収支（都市気候、ヒートアイランド現象、一次元熱収支モデル）
2. 気流の数値計算（都市の温度分布、気流分布）
3. リモートセンシングによる環境計測（土地被覆、表面温度分布）
4. 気候情報を活かした街づくり

### 成績評価方法と基準

講義に関連したテーマのレポートとその口答発表から総合的に判断して評価する。

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

特になし

### オフィスアワー・連絡先

最初の授業で指示する。

### 学生へのメッセージ

遠慮なく質問すること。

### テキスト

適宜資料を配布する。

### 参考書・参考資料等

授業中に指示する。

開講科目名	音環境評価論(07-08)		
担当教員	森本 政之	開講区分	単位数
		後期	2単位

### 授業のテーマと目標

人間にとって良質の音環境を設計するためには、人間が音環境をどのように知覚したり評価するのか明らかにすることが先決である。そのためには必ず音環境に関する様々な角度からの評価実験（心理実験やアンケート調査）が必要となってくる。そこで本講義では、心理実験やアンケート調査で得られたデータの処理方法について学び、適切な心理実験やアンケートの実施方法並びにデータ処理方法・解釈の仕方の習得を目指す。

### 授業の概要と計画

授業の進め方：講義の概要について講述した後、次の項目の中から各自割当てられた項目についてパワーポイント等を用いて講義する。1．環境評価システム，2．心理学的測定法，3．一次元尺度構成法，4．相関分析，5．直線回帰，6．多変量解析

### 成績評価方法と基準

評価の方法と基準：授業中の講義の仕方およびレポート、出席回数を評価の対象とする。講義の仕方およびレポートは100点満点で採点する。出席回数については、70%未満の者は不合格とする。

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

### オフィスアワー・連絡先

随時可。事前にメールでアポイントをとること

### 学生へのメッセージ

他の学生が理解しやすい発表を心がけること

### テキスト

なし

### 参考書・参考資料等

開講科目名	音環境解析論(07-08)		
担当教員	阪上 公博	開講区分	単位数
		後期	2単位

### 授業のテーマと目標

建築・都市空間における音響物理現象の解析と、その物理的要因の制御に関する基礎理論を理解させる。講義中に随時演習を行ない、単に知識として習得するだけでなく、考え方を身につけることを目標とする。

### 授業の概要と計画

建築・都市空間における音環境の諸問題について、物理現象としての取り扱いをもとにした解析および制御の理論を講述する。特に、室内および屋外の多様な条件下における騒音伝搬などの諸問題を中心として、その解析の考え方と手法、制御の理論と実際について述べる。

### 成績評価方法と基準

授業中に課題を指示し、演習を行う。成績評価は、この演習によって行い、高度な問題まで解決できるものはA、応用的な問題がある程度解決できるものをB、基本的な問題を解決できるものをCとする。

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

### オフィスアワー・連絡先

授業開始時に指示する。

### 学生へのメッセージ

### テキスト

必要な資料は配布する。

### 参考書・参考資料等

開講科目名	建築熱環境工学(07-08)		
担当教員	松下 敬幸	開講区分	単位数
		後期	2単位

### 授業のテーマと目標

建築物の熱環境の計画，設計においては，環境工学的な観点からの整合性を考慮することが必要である。本講義では，建築における熱，空気環境を対象として，環境形成のメカニズムについて，主として解析法の観点から詳述する。講義に関連したテーマを課題として提示し，レポートの作成を課す。

### 授業の概要と計画

建築物の熱，空気性状の解析法について展望した後，建築壁体の熱伝導解析における支配方程式，ラプラス変換，フーリエ変換，離散フーリエ変換，重み関数，三角波応答を用いた解析法および数値計算法を詳述し，室の熱的応答や熱負荷問題への応用について述べる。さらに，時変・非線形問題や間欠空調問題の解析法，計算法について講述する。

### 成績評価方法と基準

成績はレポートの内容で評価する。評価が60点以上となったものを合格とする。評価の目安は，講義の内容を十分に理解して基礎知識を取得し，意欲的に講義に参加したと判断できる場合を優，講義の内容はよく理解したが積極性が十分でないと判断できる場合を良，講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を可とする。

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

### オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーの日時は授業開始時に通知します。

### 学生へのメッセージ

### テキスト

プリントを配布する。

### 参考書・参考資料等

開講科目名	建築ゼミナールII(07-08)		
担当教員	建築学各教員	開講区分	単位数
		後期	2単位

#### 授業のテーマと目標

建築系の各関連分野における国内外文献の購読や研究発表等と、少人数による討議を行う。

#### 授業の概要と計画

#### 成績評価方法と基準

成績は課題に対する発表，レポートなどにより評価し，60点以上を合格とする。発表，レポートの内容が充実しているものに対し優，平均的なものに対し良，最低限のものを可とする。

#### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

少人数教育を前提とするため，建築系における計画意匠分野・環境工学分野を主専攻とする学生に限る。

#### オフィスアワー・連絡先

#### 学生へのメッセージ

#### テキスト

#### 参考書・参考資料等

開講科目名	建築ゼミナールⅣ(07)		
担当教員	建築学各教員	開講区分	単位数
		後期	2単位
<b>授業のテーマと目標</b>			
建築系の各関連分野における国内外文献の購読や研究発表等と、少人数による討議を行う。			
<b>授業の概要と計画</b>			
<b>成績評価方法と基準</b>			
成績は課題に対する発表，レポートなどにより評価し，60点以上を合格とする。発表，レポートの内容が充実しているものに対し優，平均的なものに対し良，最低限のものを可とする。			
<b>履修上の注意(関連科目情報等を含む)</b>			
少人数教育を前提とするため，建築系における計画意匠分野・環境工学分野を主専攻とする学生に限る。			
<b>オフィスアワー・連絡先</b>			
<b>学生へのメッセージ</b>			
<b>テキスト</b>			
<b>参考書・参考資料等</b>			